昭和42年2月24日国鉄東局特別扱承認新聞紙第490号
昭和40年3月8日第三種郵便物認可（毎月5日、15日、25日発行）
1967年5月15日 第97号

☆反帝闘争を
プロレタリア日本革命へ！
☆日本革命をアジア革命の勝利と
世界革命の突破口とせよ！
共産主義者同盟

5月15日
第97号
編集発行人 杉村宗一
一部20円
購読料
20回につき
一部 400円（干共）
二部 700円（干共）
三部以上一部に付300円

戦旗

戦旗社
東京都文京区湯島2丁目3－3（加藤ビル内）
電話代表（814）1635
振替（東京）26110
大阪支局
大阪市福島区鷺洲上3－3（土気ビル内）（59）0235
京都支局 京都市左京区下鴨宮崎町128－29 電（70）0025
名古屋支局（781）1938
静岡支局 静岡市音羽町114

☆反帝闘争の旗の下侵略と抑圧に抗し
生活と権利を実力防衛せよ！
☆プロレタリア永続革命の旗の下
共産主義者同盟に結集せよ！

5・28砂川現地闘争へ全都全国から総結集せよ！

☆5・28砂川現地闘争に全国から総結集せよ！
☆各地区反戦職場・学園で取りくみを強化せよ！
☆砂川基地拡張絶対反対！
☆ベトナム侵略絶対反対！佐藤の加担を許すな！
☆沖縄の軍事基地撤廃！米軍を沖縄から叩き出せ！
☆日米安保体制の強化を許すな！

万を越す労働者学生の実力闘争で砂川拡張阻止の展望を切り開こう

全国の労働者・学生諸君！
二月二六日の砂川現地における戦闘的労働者学生の闘いは、砂川基地を拡張しようとする勢力＝日本帝国主義佐藤内閣とアメリカ帝国主義＝に対する力に満ちた反撃の烽火となった。
五・二八戦闘的労働者学生の実力闘争で、現地反対同盟との強力なスクラムの下に、日本帝国主義の策動に抗し、退くことのない日本人民大衆の決意を叩きつけよう。

実力闘争で展望を切り開こう！

昨年の10・21ベトナム闘争は、「ベトナム戦争を一挙に拡大するな！」「ベトナム和平のために北爆中止効果がない！」（三木）、「LSR実組員を、政府が規制することはできぬ」（福田）等の最近の佐藤内閣の発言のなかに、ロコツに表現されている。

また、「防衛的武器の輸出はかまわない」（藤）、「ベトナム戦争中止効果がない！」（三木）、「LSR実組員を、政府が規制することはできぬ」（福田）等の最近の佐藤内閣の発言のなかに、ロコツに表現されている。

実力闘争で展望を切り開こう！

昨年の10・21ベトナム闘争は、「ベトナム戦ゼネストから宣戦の大会」社会党書記長も抱らず全国際には一月衆院選挙自当ての共のカンパニアとして演出され、その枠を大衆的反戦ゼネストの展望を切り開くことは、ついに出来なかった。

だが、この実力闘争の成果を踏まえて、2・26闘争の任務は、

第一には、2・26闘争をさらにより強く高めること、首都を中心とする労働者・民学生の徹底した大衆闘争として組織し闘いぬくことであり、

第二に、その大衆闘争の実力によって砂川基地拡張阻止の展望をわれわれ自からが切り開くことである。

5・28闘争に向け、全戦列を整えようではないか！

「こそ泥的加担」から「積極加担」へ

「作戦の徹底化」と「間のしめあげ」――これを合言葉としてアメリカ帝国主義者ジョンソンは、ひたすらにベトナムエスカレーションを進めている。これが米軍の「サーチ・デストロイ作戦」（索敵撃滅作戦）である。

だが、これも、ベトナム人民の強じんな反撃の前に「一進一退状態」＝ほとんど動かない戦線の固定化」に変化を与えることはできない。（持久戦）。アメリカが、一昨年、北爆開始時の四倍以上の軍隊を投入し、「近代戦力」を注ぎこんでも、ベトナム人民の強じんな反撃と抗戦闘争の前に戦線を動かしえないのだ。

われわれが、いま改めて、明きらかにしなければならないのは、このベトナム戦争における日本の地位である。

沖縄が、米軍の「核」要塞と化し、ベトナム軍事戦略における最大の青後基地となっているだけではない。

横須賀、佐世保は、今や「欠かすことのできない巨大な修理基地」（繊維および重装備）となった。

日本は、ベトナム侵略闘争に対する「反革命部隊」として「軍事介入を展開しているアメリカ帝国主義に対し、文字通り最大の後方基地としての役割を果している。

迫りつつある砂川基地拡張は、このようなアメリカ帝国主義のベトナム・アジア侵略闘争に対する反革命的軍事介入のための最大後方基地を日本の役割を、さらに一段と高めようとするものに他ならない。

「こそ泥的加担」から積極加担への佐藤の移行は、この砂川基地拡張の中にもっとも鮮く現われている。

三多摩労協幹事会五割動員、三万名集会を決定

注目の五・二六砂川闘争は、五・二六の三多摩労協幹事会で、「五割動員、三万名集会」が決定され、最終的に基本方針が確定された。これは、五月四日の三多摩労協・社会党三多摩分会・共産党三多摩地区委員会・地区反対同盟・三多摩地区委員会・地区反対同盟の四者会談によって内定されていたものが、組合段階で明確にされたことを意味する。この結果、三多摩の各党・労組・反対同盟は、中央段階をつきあげ、全国実行委員会（社）・中央実行委員会（共）は「後援」という形になった。

これは東京地評幹事会の構改宝樹派が「共産党との共闘反対」を理由に砂川闘争からの逃げを意図している。

一方、共産党系単産は五・二八闘争は積極的に宣伝され始めた。共産党は、三労の中でも強い強力に五・二八闘争に取りくんでおり、彼らの「たち逃げ」はなんとかしてもとそうとしている。しかし、彼らは四月の三多摩の四者会談において、「整然たる行動で排除する」という提案をしたが

昭和42年2月24日国鉄東局特別扱承認新聞紙第490号
昭和40年3月8日第3種郵便物認可（毎月5日、15日、25日発行）

5・28闘争を全国闘争の突破口に

六七年度学生戦線は4・28闘争、6・1メーデーをもって、その戦端を開いた。昨年秋のベトナム侵略阻止闘争に引続き「砂川基地拡張阻止」「沖縄米軍基地撤廃」をスローガンに掲げたこの二つの闘争は、不滅を誇る戦闘的学生運動が、日米帝国主義等を頂点とする反動支配と対決する闘いの結びをあげたものであった。

安保体制再編強化の一環
砂川基地拡張を阻止せよ
═砂川闘争と戦略的展望═

新たに新入生を迎え、四・二八闘争を頂点とする砂川闘争の大衆的高揚へ結集させていくことであり、またおれわれが昨年十二月全学連再建大会に向けてくり返し提起してきた目標以降の闘争の急速な転換と砂川闘争に即した具体的な提起することである。このことは、全学連の一端を担うべき社青同解放派や中核派が昨年ベトナム侵略阻止闘争でその空論性をいかんなく示した「人民扇動戦争」や「反戦反植民地闘争」をまったく引き出して全く旧態依然たる対応しかしていない現在、われわれ自身に課せられた急務であろう。

ベトナム侵略戦争の激しい拡大とともに、米軍海兵隊の巨大な基地＝砂川（立川）基地の強化拡張が策動されている。すでに現地では土地収用委員会の「審理」開始、二度にわたる強制執行の賀取、億にも及ぶ所有権侵害の賠償とバラ線はり強行の通告、と目増しに緊迫した状況がみなぎっている。この砂川基地拡張に示される在日アメリカ帝の大幅なベトナム戦争への動員は、戦後世界体制の動揺とアジア隷属闘争の激化を鋭敏に感じ取り、ベトナム戦争の激化を絶対的な条件として安保・小選挙区制を粉砕する強権的支配・軍事力強化をめざす日本帝国主義権力との本格的対決を不可避としている。

さる二月二十六日、われわれは基地拡張予定地で地元農民、地区反戦労働者とともに一千の抗議闘争をかちとり、あらゆる闘争の橋頭堡にさらにさらに実力闘争の橋頭堡を築いた。これを足場にわれわれは、さらに闘争を推し進めると同時に、われわれの闘いが安保体制の再編強化に抵抗し、日本帝国主義の侵略と抑圧に対決する闘いの焦点を形成しているのだとして、全国を系統的組織討論をもって大衆的に確認し、闘争の貫徹を導く必要がある。

ベトナム侵略と砂川基地拡張

アメリカ帝国主義のベトナム侵略は、17度線非武装地帯をめぐる陸海上からの砲撃やハノイ・ハイフォンの非戦闘員に対する空爆、そして南での せ ん滅焦土作戦、ますます暴虐な拡大を続け、ついにこれまでの文官による「平定計画」を圧倒的軍事力を直接背景とする軍に移管してきている。こうしてアメリカは出来にも拘して、南ベトナムの腐敗闘争に介入せざるを得なくなっており、また南ベトナム軍敗走は一層アメリカの政策と軍事力に依拠しなければならない体制を保持できなくなっている。解放民族戦線を中心とするベトナム人民の経済的要求、土地の解放や政治的自由をめぐる民族解放闘争は、それ故、アメリカ帝国主義と武力闘争と現体制そのものを打倒する闘争へと不可避的に発展せざるをえない。

このようなベトナム戦争の長期化浮び戦化に対応して、アメリカの対アジア政策は長期体制への移行が明確になってベトナム戦争は帝国主義にとってベトナム戦争は第一に対「社会主義圏」包囲、反制覇化によって大量の軍隊を動員して、欧州帝国主義の自滅と戦後体制の動揺の中で、それを保持できるか否かは自らのヘゲモニーを賭ける瀬となっていること、第二にドル体制の動揺とアジア隷属闘争の激化を鋭敏に感じ取り、ベトナム戦争の急速な転換と砂川闘争に即した具体的な提起することである。このことは、全学連の一端を担うべき社青同解放派や中核派が昨年ベトナム侵略阻止闘争でその空論性をいかんなく示した「人民扇動戦争」や「反戦反植民地闘争」をまったく引き出して全く旧態依然たる対応しかしていない現在、われわれ自身に課せられた急務であろう。

ベトナム侵略戦争の激しい拡大とともに、米海兵隊部隊の巨大な基地＝砂川（立川）基地の強化拡張が策動されている。すでに現地では土地収用委員会の「審理」開始、二度にわたる強制執行の賀取、億にも及ぶ所有権侵害の賠償とバラ線はり強行の通告、と目増しに緊迫した状況がみなぎっている。この砂川基地拡張に示される在日アメリカ帝の大幅なベトナム戦争への動員は、戦後世界